

Japanese Psychological Research

投稿論文募集

Research and Practice in Psychology

〈特集号〉
心理学における
ナラティブ
実践研究

〈特集号編集者〉

森岡 正芳

(立命館大学)

野村 晴夫

(大阪大学)

Narrative Based Research

投稿締切

2020年
6月30日(火)

発行予定

2021年7月
(Vol.63 No.3)



特集：心理学におけるナラティブ実践研究

この特集号は、心理学における研究と実践におけるナラティブ思考モードを探求するものです。ナラティブとは、個人の体験の意味を伝える言語形式による思考のモードです。ナラティブは、個人に生じた出来事を選び編集し筋立てる形式に特徴があります。ジェローム・ブルーナーは、論理実証主義に基づく科学的心理学と対比しうるもう一つの心理学として、ナラティブ思考モードの心理学を導入しました。1980年代より、ライフストーリーや伝記的手法を用いた心理学、心理社会的支援、心理療法などで国際的に広がり、同時に文化の固有性に根差した研究の深まりを見せています。

心理社会的支援の場では、喪失、病、災害や暴力といった人生の厳しい出来事を被った当事者が、自らの体験を語りなおすプロセスを通じて、自己感覚の再構築を促進しうることが認められています。ナラティブ実践は主体感覚の回復をもたらします。

趣旨

個人の筋立てに沿って、人生の出来事と出来事をつないでいく営みによって作られていくストーリーの行為は、自己の体験を他者と共有することを促進します。ナラティブは、自己内そして自己他者の間で交わされる対話として、社会的に構成される微視的なプロセスが伴います。意味構成のプロセスは、社会的文脈の中で確かめられます。最近では、会話についてマイクロ分析を通じて、意味の微細な動きをとらえる研究も盛んになってきています。

ナラティブ研究はナラティブ医学や、心理社会的支援、心理療法に限らず、広いテーマを包含します。人の発達、アイデンティティ形成、キャリア発達、世代継承、高齢者の回想におけるライフストーリー研究はもちろん、生活の様々な現場において試みられている質的研究、さらに当事者研究などが話題を集めています。

この特集は、心理学におけるナラティブ実践研究のすべてのタイプの研究を広く求めるものです。またナラティブの視点に関わる方法論の体系的な展望や概説なども歓迎します。

論文種類

1. Original Article
2. Brief Report
3. Review

投稿先

公益社団法人日本心理学会

Japanese Psychological Research 投稿ウェブサイト

<https://jpa.iap-jp.org/jpr/>

※投稿論文には、特集号への投稿論文であることを必ず明記してください。

注意事項

投稿に際しては、日本心理学会執筆・投稿の手びきを必ずご参照ください。

<https://psych.or.jp/publication/inst/>

- 投稿された論文については、公益社団法人日本心理学会編集委員会にて、2021年3月末までに採択・不採択を決定する予定です。

お問い合わせ

特集号編集者

森岡 正芳 (立命館大学) <mmt21306@pl.ritsumei.ac.jp>

野村 晴夫 (大阪大学) <haruon@fka.att.ne.jp>

公益社団法人 日本心理学会事務局編集部 <jpaednew@psych.or.jp>